



シュレーゲルアオガエル



シュレーゲルアオガエル



アマガエル

# 両生類と 爬虫類の調査

今年もいつの間にか厳しい冬が去り、日差しが優しく、水の温む季節がやってきました。サンショウウオ類やニホンアカガエル、ヤマアカガエルといった両生類達が繁殖期を迎えるこの季節は、両生類・爬虫類の調査員にとって、最も忙しい時期の一つです（冬季は皆冬眠してしまうので、他の分野の人に比べれば、暇になりますが・・・）。【本社自然環境調査室・熊沢純一】

## 両生類

早春のサンショウウオ類、ニホンアカガエル、ヤマアカガエルから始まり、アズマヒキガエル、タゴガエル、モリアオガエル・・・。

両生類は通常、樹林や草地に拡散して生活するため、探すのは難しいのですが、繁殖期ならば、産卵のために水辺に集まった親やその鳴き声、卵、幼生（オタマジャクシ）等を簡単に見つけることができます。このため、両生類・爬虫類の調査は、両生類の繁殖期に合わせて行うことが多く、毎年、毎年、その年の半分位は彼ら（彼女ら？）の卵や幼生ばかり追いかけているような気がします。

しかし、その時期であれば、何処でも産卵が見られるというわけではなく、それぞれの種の産卵形態に適した水辺を探さなければなりません。トウキョウサンショウウオやニホンアカガエルならば水田や湿地、水たまり等の浅い止水域、クロサンショウウオやモリアオガエルならば樹林に囲まれた池、カジカガエルならば開けた河原を持った溪流・・・。

つまり、いつ頃、どんな水辺に行けば何が産卵しているのか、それをあらかじめイメージしながら調査を行うことが、野山で上手く両生類に出会うコツです。

と、言えばカッコ良く聞こえますが、毎回毎回ピタリと当たるとは限りません。「何でこんな奴がこんな

## 両生類が産卵のために集まる場所

### 水田、湿地、水たまり



トウキョウサンショウウオ（左：成体 右：卵のう）



ニホンアカガエル



ヤマアカガエル（左：成体 右上：卵塊）

### 開けた河原を持った溪流



カジカガエル

### 樹林に囲まれた池



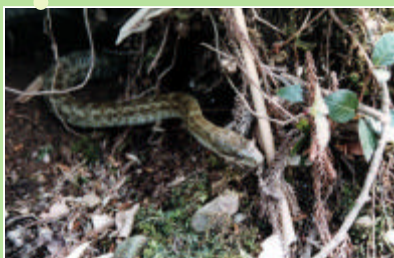
モリアオガエル

場所に」ということも時々あります。溪流の小さな沢でウシガエルの

幼生を見つけてしまったり・・・。

## 調査で よく確認される ヘビたち

主な餌は  
小鳥やネズミ類等

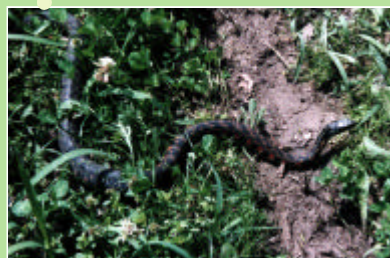


アオダイショウ



シマヘビ

主な餌はカエル等



ヤマカガシ

### 爬虫類

一方、「爬虫類は」といいますと、両生類と比べて特定の時期に集中的に姿を見せるようなことはありません。そのため、彼らと出会うためには、ひたすら「いそうな場所」を歩き回るしかありません。

では、どのような場所が爬虫類の「いそうな場所」なのでしょう。一般的に爬虫類の多くは日光浴を好みます。このため、調査の際には日当たりの良い草地や樹林の林縁、林道等を歩いて彼らの姿を探します。

加えて、ヘビ類は、その餌として生きている生き物が住んでいるような場所によく現れます。例えば、主にカエル等を食べるシマヘビ、ヤマカガシならば、水田周辺や水辺の草地、樹林であり、主にネズミ類や鳥の雛、卵を食べるアオダイショウでは、樹林や農耕地、古い民家の周辺といった具合です（もちろん、代表的な餌ということで、これ以外の生き物も食べることがあります）。

他にも、調査範囲に池等の水辺が

含まれていたら、カメ類が生息している可能性があります。カメ類も岸際や岩の上で日光浴をしていることが多いですが、人が近づく気配に気づくと、意外なほどの素早さで水中に逃げ込んでしまいます。この場合には、そっと水辺に近づいて、カメに警戒されない距離から双眼鏡を使って観察をします。

このように、晴れた日は爬虫類の確認に適しているのですが、雨の日や、晩秋の気温の下がった日には、彼らはほとんど姿を見せなくなってしまいます。梅雨時等の、雨の続く時期の調査では、カナヘビの一匹すら確認できずに「いないはずはないのに見つからない!」と、悲鳴を上げることになります。このような悪天候の日には、木の虚を覗き込んだり、石の下や腐材の下等をめくって、雨を避けて隠れている爬虫類を探します。

### 夜間調査

さらに、その他の調査方法としては、必要に応じて夜間調査を行うこ

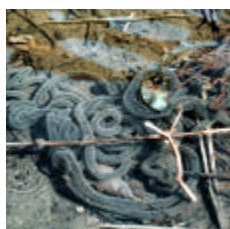
とがあります。通常、両生類・爬虫類の調査は昼間に行いますが、多くの両生類や一部の爬虫類は夜間も活動するため、夜間調査をすることによって、昼間では見られなかった種を確認できることがあります。夜間、安全に十分に注意しながら、懐中電灯の明かりを頼りにして調査地を歩いてみると、産卵のために水辺に集まったモリアオガエルや、街灯や自動販売機の回りで、照明に誘われた昆虫類を食べようとしているヤモリやアマガエルなど、昼間とはまた違った両生類・爬虫類の生態を見ることができます。特にヤモリやシロマダラといった爬虫類は夜行性の種であり、昼間調査を行っても、なかなか見つけることはできないので、これらの種の生息状況を確認するためには、夜間調査は有効な手段です。

### おわりに

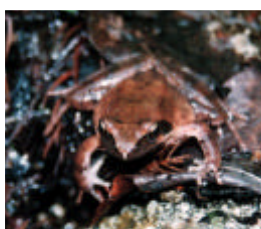
色々書きましたが、最後に、両生類・爬虫類はウロコがあったり、ヌメヌメしていたり、細長かったり、はね回ったりで、あまり生き物が好きではない人達にとっては「ふーん、そうなの」と、無関心に扱われたり、人によっては「絶対に嫌!」と嫌われてしまうこともあります。しかし、食わず嫌いなどせず、一度彼らに注目すれば、非常に興味深い生き物であることに気がきます。水辺や緑地などの環境との関わりや、生態系内に占める位置、人間の生活との関係。

このように「両生類・爬虫類」をキーワードにして自然と接すれば、色々なことが見えてくるのです。

さあ、気持ち悪いなんて言っていないで、早速彼らに会いに出かけてみましょう。



アズマヒキガエル (左: 成体 右: 卵塊)



タゴガエル



カナヘビ



シロマダラ